

# 大学史研究通信

第69号、2011年2月1日(水)

大学史研究会

第69号の内容：会員ニュース・新入会員自己紹介・第34回大学史研究セミナー報告・2011年度総会報告・セミナー参加記・事務局会開催報告・事務局業務分担の変更について・第35回大学史研究セミナー開催についてのご案内・2011年度会計報告・2011年度年会費未納の方へ納入のお願い・会員新刊ニュース・事務局からのお知らせ・退会者の報告・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

## 会員ニュース

### 新入会員

金井 文彦 会員

所属：青山学院女子短期大学事務部

専攻分野：日本近代史、近代日本の知識人・大学

### 異動のあった会員

中村 勝美 会員（所属変更・住所変更）

新所属：広島女学院大学文学部

## 新入会員自己紹介

金井 文彦会員

はじめまして。青山学院女子短期大学事務部の金井文彦と申します。以前は早稲田大学教育学部で日本近代史の立場から大学史や近代日本の知識人について学んでいました。大学史に関する学びを深められればと思い、大学史研究会への入会を決めました。ご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

## 第34回大学史研究セミナー報告

### 会場校からの報告

「みなさま、ありがとうございました」

岩手大学 大川一毅

岩手大学を会場として開催した第34回研究セミナーは、研究会事務局のご尽力をはじめ、参加会員各位及び岩手大学スタッフのご協力の下につつがなく終了いたしました。

盛岡の気候を考えて、今回の研究セミナーは例年とは異なる10月開催をお願いしました。セミナー初日は天気にも恵まれ、雄大な岩手山をご覧になれた会員もいらっしゃいましょう。盛岡の紅葉も「セミナーの開催までは」とばかりに踏ん張ってくれました。あれから三ヶ月、現在の盛岡は「わたっこ」のごとき雪につつまれております。セミナー時に見学していただいた盛岡高等農林学校本館も、改修工事のために休館となり、約1年

の眠りについております。

やはり盛岡は皆様お住まいのところからは遠かったのかもしれませんが、例年よりもセミナー参加者数が少なかったことは残念でした。しかし、シンポジウムや自由研究報告では大学史研究会らしい「顔の見える」熱い報告と議論をくり広げていただきました。

参加会員からは、被災県である岩手へのお気づかいの声もいただきました。「岩手復興の力添えになれば」と、無理をおして参加くださった会員もいらっしゃいました。心より御礼申し上げます。

今回のセミナーは、岩手大学の各部署と多くのスタッフによる支援協力があって開催することができました。岩手大学とスタッフ各位には、あらためてこの場を借りて深謝申し上げます。ある大学スタッフからは「また来年もやっちゃいますか？」という元気の出るお言葉もいただきました。いえいえ、いたしません。来年は他所様におまかせします。大学史研究会のますますの充実と発展を祈念し、「第35回研究セミナー」にバトンタッチいたします。皆様どうもありがとうございました。

### 事務局からの報告

第34回大学史研究セミナーを、2011年10月29日（土）・30日（日）の2日間にわたり、岩手大学を会場に開催しました。初日のシンポジウムは「カレッジノベル—文学・小説からひも解く大学史—」と題し、大川一毅（岩手大学）、児玉善仁（帝京大学）、吉野剛弘（東京電機大学）、松浦正博（広島女学院大学）の4会員にご発表いただきました。

「カレッジノベル」は、通常のシンポジウムで取り上げられるようなテーマとは異なり、意外性の高いテーマです。面白くもあり、しかし着眼点が難しくもあり、そうしたことを反映して企画の成立に至るプロセスは決してスムーズなものではありませんでした。しかし、終わってみて思うのは、やはりこれは大学史研究会にしかできないテーマだったということです。大学を対象に研究していて常に感じるのは、大学に関する制度的・一般的なレベルの話と、大学の日常、すなわち教員や学生が体験するキャンパスの実生活との間にある大きな乖離です。外形的な「システム」はある程度時間を掛けて情報収集すればそれなりのものを描くことができますが、それとはまったく違う次元や文脈で現場レベルでの活動が動いていることはしばしばですし、それが各国・各時代の大学の「文化」を形成しています。しかし、大学の現場は個別性が高く、それを研究対象としてどう設定するのかは難しく、大学内部で動いている「文化」を目に見える形にするのはなかなか困難なことです。個人の生々しい体験にどこまで切り込むことができるかという問題もあるでしょう。こうした中、大学に関わる研究は、ともすれば表面的な、目に見えやすい側面に傾きがちです。しかし、「カレッジノベル」は大学構成員の日常的な目線に降りて大学の文化を描く上で、有効な手法となりうる可能性を秘めているのではないかと、4氏の発表を聞きながら、そんな思いを抱かされました。我々はこれまでに描かれてきたノベルを通して、大学文化の歴史を窺い知ることができます。さらには、今の大学の実態を後世に伝える上でも、ノベルの手法には示唆が多いといえるように思います。当日の議論にもあったように、主観性・虚構性と客観性との問題など、研究という視点から見た時にノベルをどう位置付けていくのかに関する議論も必要でしょう。いずれにしても、示唆に富む4氏の発表によって、参加者に新たな視点と発想を喚起していただいたことは間違いありません。以前から研究会の中で議論されていたテーマを、大川会員の企画の元で実現できたこともたいへん嬉しく感じています。大学文化に関する知見に溢れた有意義なご発表をいただいた4氏に改めて深く感謝申し上げます。

その後の懇親会では、和やかな雰囲気の中で岩手の郷土の味覚を心ゆくまで堪能させていただきました。2日目は午前中、山崎慎一（桜美林大学）、井上高聡（北海道大学）、福

留の3会員が自由研究発表を行いました。山崎会員「アメリカにおける大学情報収集システムの成立と発展過程」、井上会員「札幌農学校開校（1876年）の背景」では、若手会員の丹念な研究に基づく有意義な発表を聞くことができました。その後、キャンパス内にある旧盛岡高等農林学校本館をボランティアのガイドの方に案内していただきました。雄大な景色と緑溢れるキャンパスに佇む建物と展示物を見学し、岩手大学の歴史と人の暖かみを感じることができ、これまた本研究会らしい見学会となりました。

この度のセミナー開催に当たっては、会場をお引き受けいただいた大川会員と岩手大学の職員の方々に多大なご尽力をいただきました。震災後の大変な状況の中であるにも関わらず、会場をお引き受けいただき、きめ細やかな心配りをいただきましたことをこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

（前事務局セミナー担当 福留東土）

## 2011年度総会報告

### 2011年度 大学史研究会総会 議事録

2011年10月29日（土）

於：岩手大学  
事務局作成

#### 1. 2011年度活動報告

福留局員より、2011年度は研究セミナー開催、通信4回発行、HP運営等、順調に活動が行われたとの報告があった。

#### 2. 紀要編集委員会報告

赤羽編集委員より、次号の特集は、昨年の研究セミナー・シンポジウム「教養教育の比較史的考察」の内容に加え、他地域の研究者にも原稿依頼している。さらに3本の投稿論文があり、年度内に発行する見込み、との報告があった。

つづいて編集委員会の構成について、以下の通り報告があった。

〔退任〕 児玉善仁（委員長）、樽松かほる（委員）

〔就任〕 古屋野素材（委員長）

〔新任〕 木戸 裕（委員）

退任となった児玉会員より、編集委員を6年間（うち委員長5年）務め、責任を果たすことができ感謝する、との挨拶があった。

#### 3. 2011年度決算報告および会計監査報告

会計補佐の浅沼局員より、2011年度決算について報告があった。つづいて会計監査の深野会員より、今年度の監査結果と過去数年度の収支推移が示され、研究会財政は健全であるとの監査報告があり、2010年度決算は異議なく承認された。

#### 4. 2012年度予算案

会計補佐の浅沼局員より、2012年度予算案について説明があり、意見交換を行った。予算の有効な活用法について会員から意見が出され、研究会の開催、事務局業務を円滑に進めるための会議経費などに支出する案が提起された。これら意見を踏まえて活動を進めることとし、2012年度予算案は了承された。

## 5. 2012年度以降の事務局体制について

福留局員より、以下の通り事務局体制の変更について提案があった。

〔退任〕福留東土（事務局代表）

〔就任〕岡田大士（事務局代表）

〔新任〕深野政之、長谷部圭彦、山崎慎一

浅沼局員、井上局員、沖塩局員、五島局員と合わせ、8名体制となる。

事務局体制については、異議なく了承された。

合わせて、2012年度以降の会計監査について、吉野剛弘会員に委嘱することが提案され、異議なく承認された。

## 6. ホームページの移管について

深野会員より、国立情報学研究所による学協会情報発信サービスの終了に伴う大学史研究会のホームページの構築に関して以下の通り報告があった。

昨年の総会で了承された通り、民間のホスティングサービス（さくらインターネット）と契約し、9月末にホームページの移管を完了した。HPアドレスおよび事務局宛メールが変更になったので、対応をお願いする。

## 7. 2012年度研究セミナーについて

福留局員より、次年度研究セミナーは東京近辺で開催し、時期としては10月から11月末で検討しているとの報告があった。また、シンポジウムのテーマを募集しており会員からの提案を積極的に頂きたい旨、依頼があった。

以上

## セミナー参加記

「専門学校に係譜学へ-盛岡高等農林学校と得業生-」

群馬工業高等専門学校物質工学科 赤羽 良一

昨年10月に大学史研究会第34回セミナーが岩手大学で開かれたが、世話人をしてくださった大川一毅先生の「物語の中の盛岡高等農林学校-岩手の“大地”と“人”とともに-」なる講演の中に「得業生」という言葉が出てきた。盛岡高等農林（以下「学校を省く」）では卒業生を「得業生」と称していたらしいのである。「得業」という言葉から、学生の頃、ゲーテがシュトラスブル大学で得業士を得た、ということを知ったのを思い出したが、セミナー終了後、旧盛岡高等農林学校本館（現農学部附属農業教育資料館）を見学して驚き、また、感動した。高等農林時代の「卒業」記念写真の説明には「得業」記念とあり、ガラスケースに展示されている「卒業論文」は「得業」論文なのである。その展示、解説の醸し出す雰囲気もおおらかで、のびのびしている。

この「得業」という言葉が、「得業士」の「得業」を意味するのか、あるいはまた、それ以外の意味を含めた言葉であったのかは研究してみなければ分からないが、私は、ここに、明治35年に盛岡高等農林を生み出した人々、そこで働いた教師や学生、職員の大きな意気と誇り、そして学校の教育の水準の高さを感じたのである。

戦後、大学は一つとなった。しかし、高等農林、そして、高等工業、高等商業が生み出した精神は、間違いなくそれぞれの大学に受け継がれ、息づいていると思う。このこと、つまり、旧制専門学校の遺産とその継承の物語は、我々を大学史研究における壮大なテーマへと改めて導くだろう。自己の研究への、ささやかだが新たな示唆を得た気持ちで、盛岡を後にした。

## 事務局会開催報告

2012年1月9日、東京のキャンパスイノベーションセンターにて、事務局会を開催しました。当日は、事務局退任者、新任者を含めて9名全員が顔を揃えました。この度、事務局が新体制へ移行することから、各担当の現状や課題について意見交換し、必要な引継ぎ作業を行いました。また、これまでの研究会の活動を踏まえ、今後の会のあり方についても議論を行いました。当日の議論の内容については、今後も局内での議論を行い、総会の場などで会員の皆様に報告していく予定です。

私事になり恐縮ですが、今回のセミナーをもちまして事務局を退任することとなりました。2004年に事務局に入れていただき、7年間にわたって、通信、紀要、セミナー、代表を務めさせていただきました。至らぬところばかりでしたが、事務局の仕事を通して得た様々な方とのつながりは私の何よりの財産です。特にセミナー開催を通して会場をお引き受けいただいた方々、シンポジウムのパネリストをお引き受けいただいた方々、さまざまなご支援をいただいた方々に対して厚く御礼を申し上げます。また、一昨年夏に若手研究者交流会を開催し、多くの若手会員に集まっていたいただいたことも大切な思い出です。

事務局は岡田新代表を中心とする新たな体制の下でさらに充実した活動が展開されるものと確信しております。今後とも事務局の活動へのご理解・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(前事務局代表 福留東土)

## 事務局業務分担の変更について

このたび大学史研究会の事務局代表に就任しました岡田大士です。

事務局員の中で比較的会員歴・事務局員歴が長かったことが、代表に選ばれた理由の一つだと思います。私が入会した当時のことを少し書かせていただきます。入会した翌年、セミナーで東工大の戦後大学改革に関する発表を行うことになりました。発表の直前まで東工大のある大岡山で原稿の修正を行い、自転車で目黒にあった教育政策研究所まで走って、どうにか話し終えました。その日の懇親会では、亡くなった中野実さんに「よく（東工大に残っていた）資料を読んだね」と言われてようやくほっとしたのでした。

私が入会したころと同じように、少なくともはなつたものの年に何人か20代の若い研究者が入会してくれます。今回、事務局員を担当していただくことになった長谷部圭彦さん、山崎慎一さんも、そんな若い会員たちです。長谷部さんには通信原稿の作成、山崎さんには会計を担当していただきます。これまで通信を担当していただいていた井上美香子さんにはセミナーを担当していただくこととなります。深野正之さんは初めての事務局員のように見えますが、この間、研究会ホームページを陰でずっとサポートしていただけてきました。今回、事務局員として改めてホームページ管理をお願いするとともに、セミナーに関しても担当していただくことになりました。五島敦子さん、沖塩有希子さん、浅沼薫奈さんの3名にも引き続き事務局を担当していただきます。

紀要『大学史研究』に関しては、引き続き岡田が事務局の担当者となります。24号より東信堂から刊行されることになり、市中の書店に『大学史研究』が並んだときには小さな感激を覚えました。しかしながら、25号が2011年中に刊行できなかったことは大変申し訳なく思っています。新任の古屋野委員長と協力し、25号の刊行に向けて努力する所存です。岡田が特集号や書評で寄稿のお願いにあがることもあるかと思っておりますので、会員の皆様のご協力をいただけますよう、お願いいたします。また、若手の研究者の方は、ぜひ自由研究で投稿していただければと思います。

最後になります。代表を含め事務局員は人文系でいえばまだまだ「若手」の研究者たちであります。会員の皆様にはご失礼・ご迷惑をおかけする（あるいはすでにおかけしているかも）ことがあるかと思っておりますので、お気づきの点があれば叱咤激励の両面から事務局員にお声をかけていただければ幸いです。今後とも大学史研究会をよろしく願いいたします。

（事務局代表 岡田 大士）

### **第 35 回大学史研究セミナー開催についてのご案内**

第 35 回大学史研究セミナーは、出光直樹会員のご協力のもと、横浜市立大学に会場をお引き受けいただくことになりました。開催場所は、横浜市立大学の金沢八景キャンパス（〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2）です。開催の日程につきましては、10 月下旬から 11 月上旬の週末を予定致しております。開催の日程等の詳細が決まり次第、本通信及びホームページ上でお知らせ致します。

会員の皆様の多数のご参加をお待ち致しております。

（事務局セミナー担当 井上美香子）

### **2011 年度会計報告**

大学史研究会 2011 年度会計ならびに 2012 年度予算案につきまして、以下に概要をご報告いたします。

#### **\* 2011 年度の収支報告**

##### **【 収入 】**

2010 年度会計からの繰越金は、4,027,193 円でした。

年会費は、一般会員：5,000 円、大学院在学・日本学術振興会特別研究員会員：3,000 円です。

2011 年度年会費につきましては、85 名の会員より納入いただき、年会費・入会金の納入総額は、588,000 円でした。

ここ数年、総会時点での年会費の納入率は、6 割程度の状況が続いております。今年度は 70.2% でした（昨年度より 11.4% 上昇）。

年会費をお納め下さった会員各位におかれましては、この場を借りてお礼申し上げますとともに、今後も引き続き研究会の発展と円滑な運営のために、年会費納入に対するご理解ご協力をお願い申し上げます。

なお、年会費に関連いたしましては、2011 年度分までの会費未納の方を対象として、年会費納入依頼通知と払込票を改めて送付させていただきました。

この納入依頼通知の再送によって、昨年度は 21 名の方から納入いただきました。今年もご理解ご協力いただきたく存じます。詳しくは、後述の「2011 年度分までの年会費未納の方へ — 納入のお願い —」、または、年会費納入依頼通知をご覧の上、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

その他の収入としましては、『大学史研究』（紀要）の非会員への売上金、63,000 円がありました。

2011 年度の総収入額としましては、¥4,763,638 円、前年度繰越金を除いた実収入額は、736,445 円でした。

## 【 支出 】

『大学史研究』第24号制作・印刷・発送費は529,855円でした。

名簿発行経費は36,971円でした。

第34回セミナー開催準備費は、50,000円でした。

編集委員会会議費・交通費は、19,893円、事務局会議費・交通費は4,820円でした。

印刷費は、0円です。これは「大学史研究通信」発行の印刷、会員への諸連絡の印刷物、あるいは、年会費納入依頼通知の印刷等に関わる経費ですが、これまで、事務局員が大学等で負担しているケースが多く、今後はこうした負担がなるべくかからぬように対処していきたいと考えております。

通信費の支出は、94,153円です。これは、「大学史研究通信」の発送、年会費納入依頼通知の発送、セミナーの出欠調査ハガキや、その他宅配便等の経費です。

消耗品・諸雑費は、3,445円です。これは、事務局運営にあたっての文房具・ラベル・用紙・送金手数料等の経費にあたります。

また、謝金として、31,000円を支出いたしました。これは、「大学史研究通信」の発送等一度に大量の作業がある際のアルバイト依頼、および、セミナーのパネリストへの謝礼や交通費に関わる経費となります。

次年度繰越は、3,993,501円、来年度繰越金を除く総支出は770,137円でした。繰越金を除く収支の差は、33,692円のマイナスとなりました。

「2011年度会計報告」に明記されているとおり、当該年度の会計は深野政之会員に監査を依頼し、精細な監査の上、会計の適正処理をご承認いただきました。御多忙のところ監査業務を賜りました深野会員には、この場を借りてお礼申し上げます。

なお、次年度からの監査業務につきましては吉野剛弘会員にお引き受けいただくことがセミナー総会にて承認されました。この場を借りまして吉野会員にお願い申し上げます。

## \* 2012年度の予算案

大学史研究会では、次年度の予算案につきましては、事務局による基本案を総会に提示し、ここでの審議を経て、最終決定をいたしております。

例年と同様、2012年度予算も上記の手順にしたがって予算案を決定しましたので、以下にご報告いたします。

### 【 収入案 】

収入は、年会費と紀要売上金の2つになります。とりわけ、本研究会の運営経費は、年会費の納入に大きく依存しております。

年会費につきましては、前年度並みの650,000円を収入予定額として設定いたしました。繰り返しで恐縮ではありますが、2012年度も会員各位のご理解ご協力をお願い申し上げます。

紀要売上金は、昨年度までの売上金を参考に30,000円としました。このような金額を収入予定に組み込めるのは、編集委員会の方々のご尽力により売り上げを伸ばしていただいていることが関わっております。この場を借りてお礼申し上げますとともに、今後とも何卒よろしくようお願い申し上げます。

なお、第34回セミナー開催費の戻し入れ額を50,000円と見積もっております。セミナー開催経費につきましては、後述の支出案をご参照下さい。

総収入額は4,726,501円、繰越金を除く総収入額は733,000円といたしました。

## 【 支出案 】

支出案は、例年の予算案で設定している支出項目と支出額を考慮しつつ、算出いたしました。

『大学史研究』（第 25 号）を発行する予定になっております。その発行経費（制作・印刷・発送費の総計）を 550,000 円計上しました。ここ数年の実績を踏まえ、一回分の経費としましたが、紀要発行は研究会の活性化にとって最も重要な事業ですので、投稿論文の本数に応じ、その都度柔軟に対応させていただきたいと考えております。

セミナー開催準備費とは、セミナー開催に向けて事前に開催校にお預けする費用です。通常ですと参加費で経費は賄えますので、収入欄にも記載しましたように、翌年度そのまま戻し入れていただくことが想定されます。

大学史研究会ホームページにつきましては、研究会の情報発信機能として、今後一層の充実と活用を図る予定です。この管理費として、30,000 円を含めております。

編集委員会および事務局の会議費・交通費につきましては、過去の総会で承認された項目ですので、それぞれ 50,000 円を計上いたしました。研究会の円滑な運営を目指して、定期的に会合を開けるよう努めたいと思っております。

その他の諸経費も、ほぼ例年通りの額を計上しております。非会員への原稿依頼等に必要な謝金 20,000 円、予備費 100,000 円も含めました。

2012 年度から次年度への繰越金は 4,726,501 円、繰越金をのぞく総支出予算案は 985,000 円を予定しております。

本研究会におきましては、全体として緊縮財政をうたってはおりますものの、研究会として有益と認め得る支出につきましてはやぶさかではありません。大学史研究会の発展のため、あるいは、会員サービスのために必要な支出の要請がありました際には、事務局で検討し、それが妥当であると判断した場合には、これにお応えしていきたいと考えております。今後とも会員各位からのご提案ご教示を歓迎いたしますとともに、研究会の将来的なビジョンも併せてご検討いただければ、幸いに存じます。

以上、「2011 年度会計報告」および「2012 年度予算案」につきまして、ご質問ご提案等ございましたら、事務局までご連絡のほどよろしくお願い申し上げます。

（事務局会計担当 沖塩有希子・山崎慎一）



大学史研究会 総会 資料 (2011 年 10 月 29 日 : 岩手大学)

大学史研究会 2011 年度 会計報告

(自 2010 年 11 月 20 日 ~ 至 2011 年 10 月 28 日)

収入

支出

費目	金額	費目	金額
前年度繰越金	¥4,027,193	「大学史研究」第 24 号制作・印刷・発送費	¥529,855
年会費・入会金	¥588,000	名簿発行経費	¥36,971
「大学史研究」売上金	¥63,000	第 34 回セミナー開催準備費	¥50,000
第 33 回セミナー開催経費 等 戻し入れ	¥84,980	編集委員会会議費・交通費	¥19,893
利息	¥465	事務局会議費・交通費	¥4,820
		印刷費	¥0
		通信費	¥94,153
		消耗費・諸雑費(文具・振込み手数料等)	¥3,445
		謝金(セミナーパネリスト、およびアルバイト代)	¥31,000
		次年度繰越金	¥3,993,501
計	¥4,763,638	計	¥4,763,638

前年度繰越金を除く総収入 金 736,445 円

次年度繰越金を除く総支出 金 770,137 円

上記収支差し引き 金 33,692 円(マイナス)

上記のとおり、ご報告いたします。 事務局 会計担当 沖塩有希子



上記の会計報告について会計監査を実施した結果、領収書ならびに預金通帳等は、全て妥当かつ正確に処理されていることを認めましたのでご報告いたします。

会計監査

深野政三



**大学史研究会 2012年度 予算案**  
**(自 2011年 10月 29日 ～ 至 2012年 総会開催前日)**

収入		支出	
費目	金額	費目	金額
前年度繰越金	¥3,993,501	「大学史研究第25号」 制作・印刷・発送費	¥550,000
年会費・入会金	¥650,000	第35回セミナー開催準備費	¥50,000
『大学史研究』売上金	¥30,000	ホームページ管理費	¥30,000
第34回セミナー開催準備費戻し入れ	¥50,000	編集委員会会議費・交通費	¥50,000
利息	¥3,000	事務局会議費・交通費	¥50,000
		印刷費	¥20,000
		通信費	¥75,000
		消耗品・諸雑費(文具・ 振込み手数料等)	¥10,000
		謝金(アルバイト代)	¥30,000
		謝金(非会員への執筆依頼等)	¥20,000
		予備費	¥100,000
		次年度繰越金	¥3,741,501
計	¥4,726,501	計	¥4,726,501

前年度繰越金を除く総収入 金 733,000 円

次年度繰越金を除く総支出 金 985,000 円

上記のとおり、ご提案いたします。 大学史研究会 事務局

**2011年度までの年会費未納の方へ — 納入のお願い —**

本通信に記載の会計報告のとおり、大学史研究会の収入は、会員各位からの年会費(一般会員：5,000円、大学院在学・日本学術振興会特別研究員：3,000円)に大きくよっております。

2011年度の全会員数に対する年会費納入率は70.2%であり、未納の会員も少なからぬ状況です。

そこで、2011年度の年会費納入依頼通知はすでに昨年中に発送済みではありますが、2012年1月15日現在、過年度分の年会費が未納の方につきましては、年会費納入依頼通知と払込票を再送させていただくことにしました。研究会の円滑な運営と発展のために、

ご理解ご協力をお願い申し上げる次第です。詳細につきましては、同封しております納入依頼通知をご覧ください。未納年度分の年会費の合計金額を明示しております。

また、年会費3ヶ年度分以上の滞納の会員各位につきましては、研究会への継続参加のご意志を年会費納入によって確認できるまで、大学史研究会からの諸連絡や「研究通信」、『大学史研究』（紀要）等の発送を停止する規定になっております。該当する会員各位へのご連絡通知にはこの点も記載されておりますので、こちらもご留意願います。

なお、本依頼通知発送と入れ違いに年会費を納入いただきました場合には、何卒ご容赦のほどお願い申し上げます。

—— 年会費納入払込先 ——

郵便振替口座 : 大学史研究会      口座番号 00120-3-47583

または

銀行口座 : 大学史研究会      三井住友銀行 池袋東口支店 (店番 671)  
普通預金 (口座番号 3456109)

(事務局会計担当 沖塩有希子・山崎慎一)

## 会員新刊ニュース

明治大学史資料センター (編) 『明治大学小史 人物編』 学文社 (2011/11)

## 『大学史研究』の編集状況

紀要編集委員会では『大学史研究』第25号の編集を行っております。特集では、2010年に京都で行われましたシンポジウム「教養教育の比較史的考察」を発展させた内容とする予定です。なお、通常であれば2011年に25号が刊行する予定でありましたが、昨年の震災の影響で編集委員会開催が遅れたため、結果として25号の刊行も遅れる結果となりました。編集委員会として25号の遅れを回復するとともに、次号の刊行準備を進めてまいりますので、ご理解くださいますようお願いいたします。自由研究論文につきましても、迅速に審査の手続きを行い、必要な書類等をご用意いたします。皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

(紀要担当 岡田大志)

## 事務局からのお知らせ

### 「会員新刊ニュース」情報提供のお願い

本通信では、会員の研究活動の紹介を心がけております。新刊を発行されたご本人、あるいは会員が新刊を発行されたという情報を得られた方は、事務局 (代表Eメールアドレス: jshshe@daigakushi.jp) もしくは本通信編集担当の五島までご一報いただければ幸いです。

## 退会者の報告

以下の会員の方が退会されました。長い間本会の活動にご協力賜りまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

退会者：岩下 敦哉 会員

### 原稿募集

『大学史研究通信』第70号は2012年4月30日に発行予定です。会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催行事のお知らせなど、どのようなものでも結構です。皆様からの投稿を心よりお待ちしております。原稿提出・お問い合わせ等は、事務局（代表Eメールアドレス：jshshe@daigakushi.jp）、もしくは本通信編集担当の五島までお願いいたします。

### 住所・所属変更届のお願い

住所や所属（昇任・学位取得も含む）に変更のある会員は事務局までご一報くださるようお願いいたします。また、教授・研究のために海外にご滞在予定の方も、海外でのご連絡先をお教えいただけましたら幸いです。ご連絡は事務局代表Eメールアドレス（jshshe@daigakushi.jp）までお願いいたします。なお、変更届にあたっては、年会費払込票（郵便口座）の「通信欄」を利用することも可能です。

### 『大学史研究通信』バックナンバー頒布のお知らせ

大学史研究会では、紀要『大学史研究』のバックナンバーを販売しております。請求書・領収書の発行もいたしますので、お気軽に事務局にメール(jshshe@daigakushi.jp)にてお問い合わせください。バックナンバーの目次と在庫状況については、ホームページ(<http://daigakushi.jp/>)をご覧ください。なお、23号以降の注文につきましては、東信堂へご連絡ください。（紀要担当 岡田大士）

### 編集後記

昨年は、「絆」という言葉に象徴されるように、人と人のつながりや、みんなが手をひとつに携えて生きていくことの意味を考えさせられた1年でした。歴史研究に携わる者としても、私たちが築いてきたものを問い返すことで、これからの社会をどう築くのかを探求していかなければならないという思いを新たにいたしました。

大学史研究会がより一層充実した会になるよう、今年も務めてまいりたいと思います。今年もどうぞよろしくをお願いいたします。

（五島敦子 記）

『大学史研究通信』第 69 号の編集は事務局・五島敦子が担当いたしました。

連絡先 〒466-8673 名古屋市昭和区山里町 18  
南山大学 短期大学部  
TEL : 052-832-6211 FAX: 052-832-6210  
E-mail: agoshima@nanzan-u.ac.jp

『大学史研究通信』第 70 号は、2012 年 4 月 30 日発行予定です。

### 大学史研究会事務局

〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1  
中央大学法学部 岡田大士研究室気付 大学史研究会  
TEL&FAX:042-674-3151 e-mail: daishi@home.nifty.jp  
※不在にしていることが多いので、なるべく FAX か電子メールにてご連絡ください。  
URL:<http://www.daigakushi.jp/>

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表 E メールアドレスまでお願いいたします。

E-mail: [jshshe@daigakushi.jp](mailto:jshshe@daigakushi.jp)

### 大学史研究会事務局員（五十音順）

浅沼 薫奈（大東文化大学）	井上 美香子（九州大学大学文書館百年史編集室）
岡田 大士（中央大学）	沖塩 有希子（千葉商科大学）
五島 敦子（南山大学）	長谷部 圭彦（日本学術振興会特別研究員）
深野 政之（一橋大学）	山崎 慎一（桜美林大学）